

スポーツくじ



スポーツ振興くじ助成事業

令和 4 年度

テニス環境等実態調査 報告書

令和 5 年（2023 年）3 月

公益財団法人 日本テニス協会

スポーツくじ



すべてのスポーツにエールを

スポーツくじの収益は、日本のスポーツを育てるために使われています。

目 次

1. ご挨拶	2
2. コロナ禍での民間テニス事業者の経営実態調査	3
(1) 調査実施概要	3
(2) 調査結果の概要	3
3. テニス観戦・競技者実態把握調査（一般層調査）報告書	15
4. テニス界における選手・公認審判員・公認指導者数	24
4-1 登録選手	24
4-1-1 プロ登録選手	24
4-1-2 一般登録選手	24
4-1-3 ベテラン登録選手	25
4-1-4 大学生登録選手	25
4-1-5 ジュニア登録選手	26
4-1-6 高校生登録選手	26
4-1-7 中学生登録選手	27
4-2 公認審判員	27
4-3 公認指導員	28
4-3-1 コーチ 1～4、テニス教師、テニス上級教師	28
4-3-2 S 級コーチ	29

1. ご挨拶

2012 年度以降、日本テニス協会はテニス基本データの編纂とテニス環境の改善に資する調査を実施し、その結果を「テニス環境等実態調査報告書」として公表しています。

2020 年度からは、特にコロナ禍による環境変化が、テニス事業者等に与える影響を継続的に調査・把握し、広くテニス関係者へ情報共有を続けてきました。

そして 2022 年度は、テニス人口の維持・増加に繋がる各種施策をうちだすことが容易となるよう、テニス人口の推移や変化をよりわかりやすい表記にしました。

本報告書は過去の分を含め、本協会公式ホームページでご覧いただけますので、積極的にご活用いただけたら幸いです。

最後になりましたが、本調査の実施に当たり、スポーツ環境調査助成事業としてご支援いただいた独立行政法人日本スポーツ振興センター様、アンケート調査の準備にご協力いただいた公益社団法人日本テニス事業協会様、そしてアンケートにご回答いただいた全国のテニス事業者の皆さまに厚く御礼を申し上げます。

2023 年 3 月

公益財団法人日本テニス協会
会長 山西健一郎

2. コロナ禍での民間テニス事業者の経営実態調査

(1) 調査実施概要

調査目的	公益社団法人日本テニス事業協会の協力を得て、全国のテニス事業者を対象としたアンケート調査を実施。2020年に発生した新型コロナウイルス感染症の拡大による経営環境の変化とコロナ禍での取組状況を把握する。
調査対象	全国のテニス事業者 816 事業所
調査方法	郵送配布郵送回収法
回答状況	有効回答 377s 有効回収率 46.2%
調査時期	2023 年 2 月～3 月
調査主体	公益財団法人 日本テニス協会
調査協力	公益社団法人 日本テニス事業協会
調査実施	(株) 日本リサーチセンター

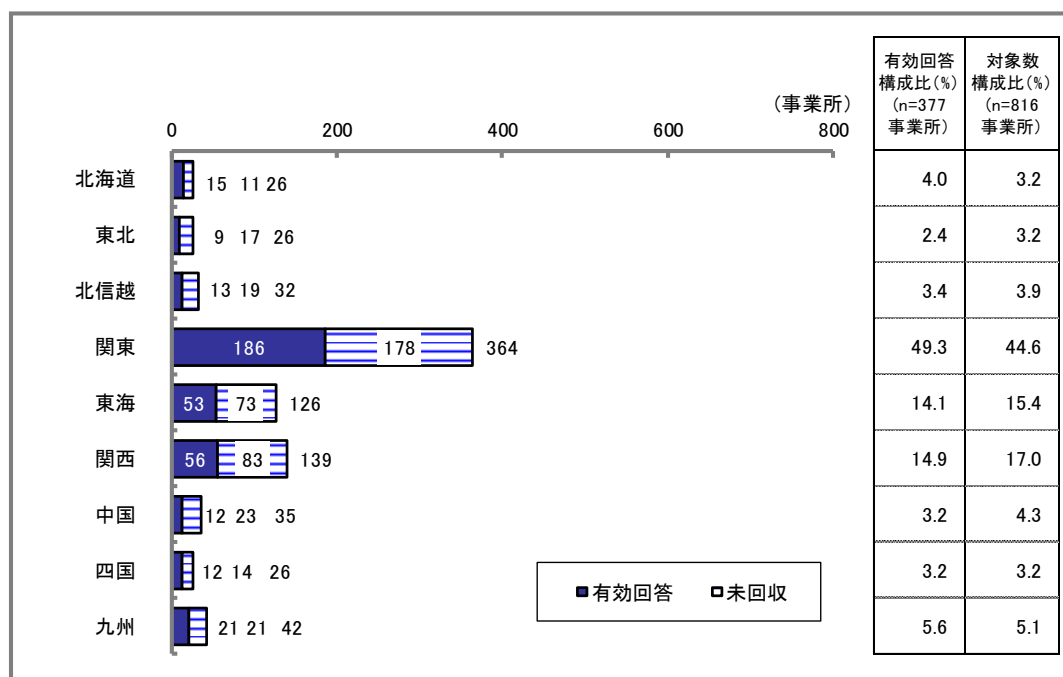
(2) 調査結果の概要

1 テニス事業者の地域分布・組織形態・サービス内容

日本テニス協会では、2022 年度、全国のテニス事業者 816 事業所を対象に、郵送配付郵送回収による調査を実施し、377 の事業所から回答を得た。下記では、回答のあった全国 377 事業所の概況をまとめている。

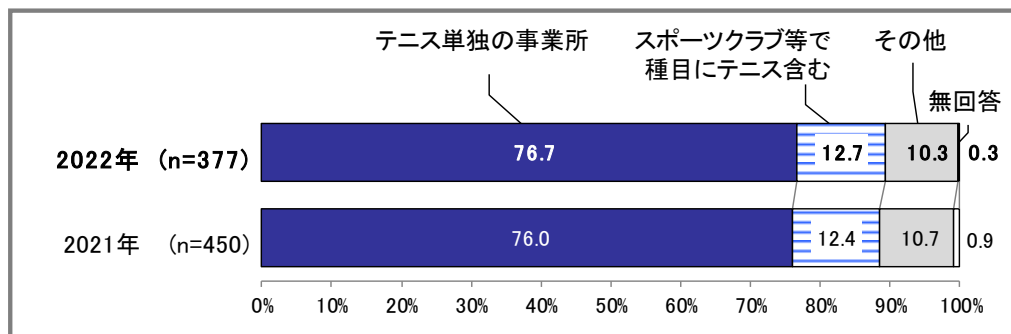
2022 年度調査の対象となった事業所と回答のあった事業所の地域別の分布をみると、いずれも関東が 4 割台で最も多く、2 番目が関西、3 番目が東海となっている（図表 1-1）。

図表 1-1：テニス事業者調査 回収状況（地域別）（n=377 事業所）



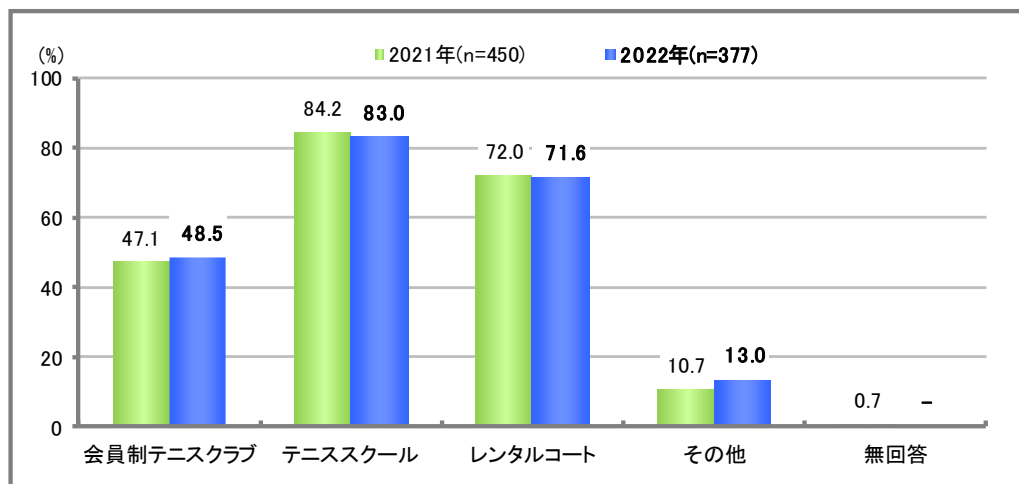
事業形態をたずねたところ、「テニス単独の事業所」が 76.7%で最も多い。次いで「スポーツクラブ等で種目にテニス含む」が 12.7%、その他が 10.3%である。（図表 1-2）。

図表 1-2：テニス事業者 事業形態（n=377 / 450 事業所）



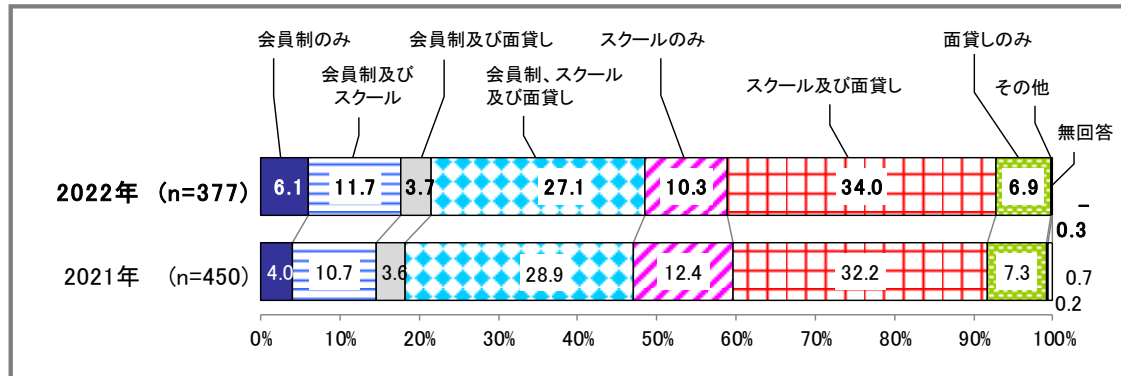
全国のテニス事業者に、提供しているサービス内容を複数回答でたずねたところ、「テニスクール」が 83.0%で最も多い。次いで「レンタルコート」が 71.6%、「会員制テニスクラブ」が 48.5%の順である（図表 1-3）。

図表 1-3：テニス事業者のサービス内容（n=377 / 450 事業所）



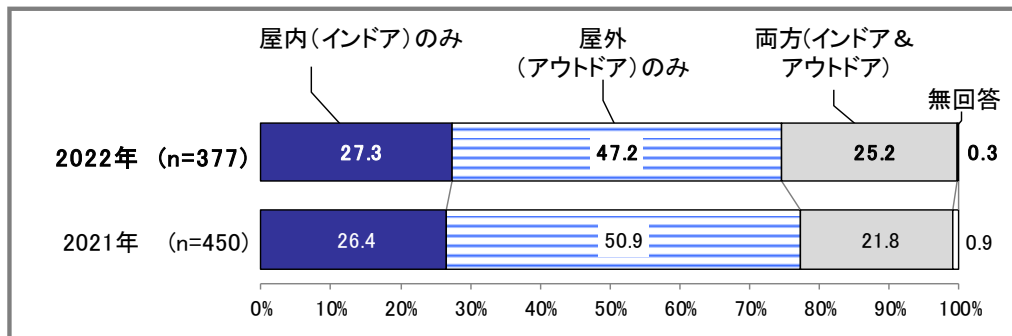
サービス内容の組み合わせを見たところ、「スクール及び面貸し」（34.0%）、「会員制、スクール及び面貸し」（27.1%）がそれぞれ 3 割前後で、この二つで全体の 6 割（61.1%）を占める。以下、「会員制及びスクール」（11.7%）、「スクールのみ」（10.3%）、「面貸しのみ」（6.9%）、「会員制のみ」（6.1%）、「会員制及び面貸し」（3.7%）の順で続く（図表 1-4）。

図表 1-4：テニス事業者のサービス内容組み合わせ（n=377 / 450 事業所）



テニスコートの設置場所をたずねたところ、「屋外（アウトドア）のみ」が最も多く 47.2%、「屋内（インドア）のみ」が 27.3%、「両方（インドア&アウトドア）」が 25.2%であった。前回（2021年）と比べると「屋外（アウトドア）のみ」が 2.7 ポイント減り、「両方（インドア&アウトドア）」が 3.4 ポイント増えた（図表 1-5）。

図表 1-5：テニスコート設置場所（n=377 / 450 事業所）

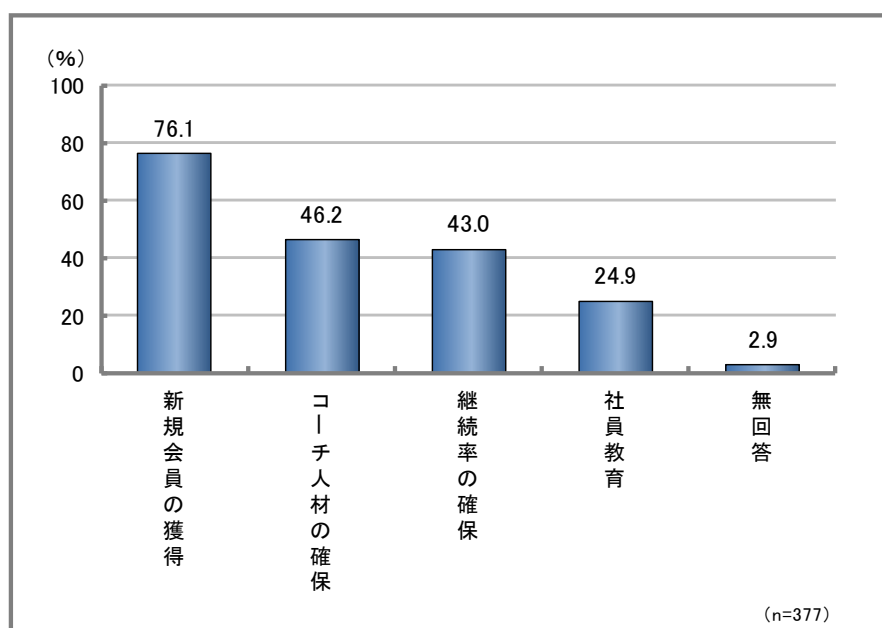


2 経営状況

経営状況および新型コロナウイルスの影響・対策についてたずねた。

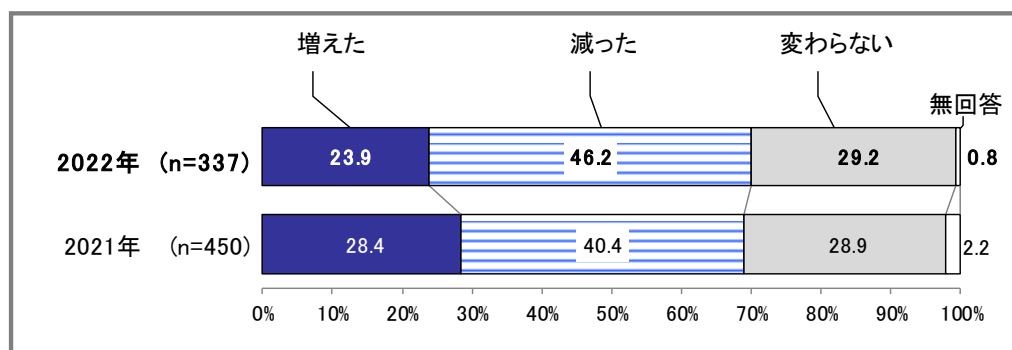
急務と思うことは「新規会員の獲得」が 76.1%で 1 位にあがった。以下、「コーチ人材の確保」(46.2%)、「継続率の確保」(43.0%)、「社員教育」(24.9%)の順で続く(図表 2-1-1)。

図表 2-1-1：事務所の経営において急務と思われること (n=377 事業所)



前年度比売上高の増減をたずねた。全体で見ると、「増えた」が 23.9%、「減った」が 46.4%、「変わらない」が 29.2%となり、前年比売上高は減少が増加を 22.3 ポイント上回る結果となった。前回(2021 年)に比べて「増えた」が 4.5 ポイント減り、「減った」が 5.8 ポイント増加した(図表 2-1-2)。

図表 2-1-2：事業所の売上高の前年同期比の増減 (n=377 / 450 事業所)



テニス部門の形態別に売上高の増減を見ると、「増えた」の割合はテニス単独の事業所が22.1%であるのに対し、スポーツクラブ等で種目にテニスを含む事業所は29.2%で、スポーツクラブ等で種目にテニスを含む事業所の方が、売上が増えたとする割合が高い。

サービス内容(組み合わせ)別にみると、「会員制、スクール及び面貸し」「スクールのみ」「スクール及び面貸し」は「増えた」が20～30%台で高い。

コート形態別にみると、「増えた」の割合は、「屋内（インドア）のみ」が34.0%と最も高く、次いで「両方（インドア&アウトドア）」が約3割（29.5%）であるのに対し、「屋外（アウトドア）のみ」は15.2%で前回（22.3%）と比べて7.1ポイント低下した。

地域別にみると「増えた」の割合は、関東（29.6%）や関西（26.8%）が2割台で他の地域と比べて高い。前回と比べると、関西は大きな変動はないが、関東は「増えた」が5.1ポイント低下した（図表 2-1-3）。

図表 2-1-3：属性別に見た事業所の売上高の前年同期比の増減（n=377 / 450 事業所）

【2022年】

(%)

		n	増えた	減った	変わらない	無回答
	全 体	377	23.9	46.2	29.2	0.8
事業所の テニス部門形態	テニス単独の事業所	289	22.1	48.1	29.4	0.3
	スポーツクラブ等で種目にテニス含む	48	29.2	39.6	29.2	2.1
	その他	39	30.8	38.5	28.2	2.6
事業所の サービス内容 (組み合わせ)	会員制のみ	23	8.7	47.8	43.5	－
	会員制及びスクール	44	6.8	50.0	43.2	－
	会員制及び面貸し	14	7.1	64.3	28.6	－
	会員制、スクール及び面貸し	102	26.5	46.1	25.5	2.0
	スクールのみ	39	33.3	51.3	15.4	－
	スクール及び面貸し	128	32.0	39.8	27.3	0.8
	面貸しのみ	26	7.7	53.8	38.5	－
	その他	1	100.0	－	－	－
コート形態別	屋内(インドア)のみ	103	34.0	44.7	20.4	1.0
	屋外(アウトドア)のみ	178	15.2	49.4	34.8	0.6
	両方(インドア&アウトドア)	95	29.5	42.1	27.4	1.1
地域別	北海道	15	13.3	60.0	26.7	－
	東北	9	11.1	66.7	22.2	－
	北信越	13	7.7	61.5	30.8	－
	関東	186	29.6	41.4	28.0	1.1
	東海	53	17.0	54.7	28.3	－
	関西	56	26.8	39.3	32.1	1.8
	中国	12	8.3	75.0	16.7	－
	四国	12	16.7	33.3	50.0	－
	九州	21	19.0	47.6	33.3	－

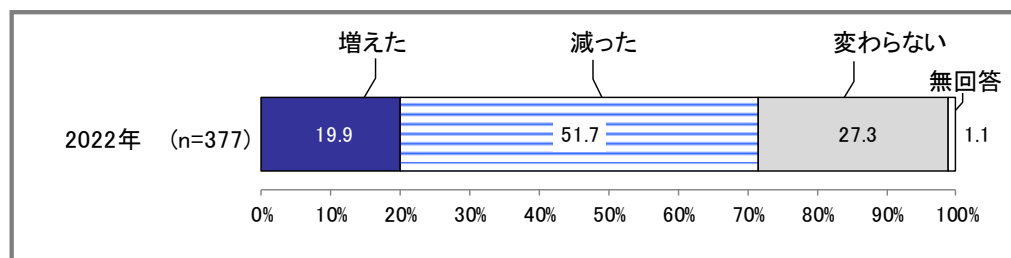
【2021年】

(%)

		n	増えた	減った	変わらない	無回答
	全 体	450	28.4	40.4	28.9	2.2
事業所の テニス部門形態	テニス単独の事業所	342	26.9	40.4	31.6	1.2
	スポーツクラブ等で種目にテニス含む	56	33.9	41.1	23.2	1.8
	その他	48	35.4	41.7	18.8	4.2
事業所の サービス内容 (組み合わせ)	会員制のみ	18	5.6	22.2	72.2	－
	会員制及びスクール	48	18.8	43.8	37.5	－
	会員制及び面貸し	16	12.5	56.3	31.3	－
	会員制、スクール及び面貸し	130	23.1	43.8	31.5	1.5
	スクールのみ	56	35.7	41.1	23.2	－
	スクール及び面貸し	145	38.6	37.2	22.1	2.1
	面貸しのみ	33	30.3	42.4	21.2	6.1
	その他	1	－	－	100.0	－
コート形態別	屋内(インドア)のみ	119	37.8	37.8	21.8	2.5
	屋外(アウトドア)のみ	229	22.3	41.9	34.9	0.9
	両方(インドア&アウトドア)	98	32.7	40.8	24.5	2.0
地域別	北海道	13	7.7	61.5	30.8	－
	東北	13	7.7	53.8	38.5	－
	北信越	12	8.3	50.0	33.3	8.3
	関東	219	34.7	36.1	27.4	1.8
	東海	66	27.3	39.4	30.3	3.0
	関西	73	28.8	43.8	26.0	1.4
	中国	18	22.2	44.4	33.3	－
	四国	16	12.5	56.3	25.0	6.3
	九州	20	20.0	35.0	40.0	5.0

前年度比でみた利益の増減をたずねた。全体でみると、「増えた」が19.9%、「減った」が51.7%、「変わらない」が27.3%となり、前年比利益は減少が増加を31.8ポイント上回る結果となった（図表 2-1-4）。

図表 2-1-4：事業所の利益の前年同期比の増減（n=377 事業所）



テニス部門の形態別に利益の増減を見ると、「増えた」の割合はテニス単独の事業所が17.3%であるのに対し、スポーツクラブ等で種目にテニスを含む事業所は29.2%で、スポーツクラブ等で種目にテニスを含む事業所の方が、利益が増えたとする割合が高い。

サービス内容(組み合わせ)別にみると、「スクールのみ」「スクール及び面貸し」は「増えた」が20～30%台で他に比べて高い。

コート形態別では、「増えた」の割合は、「屋内（インドア）のみ」（28.2%）と「両方（インドア&アウトドア）」（23.2%）は2割台であるのに対し、「屋外（アウトドア）のみ」は1割台（13.5%）であった。

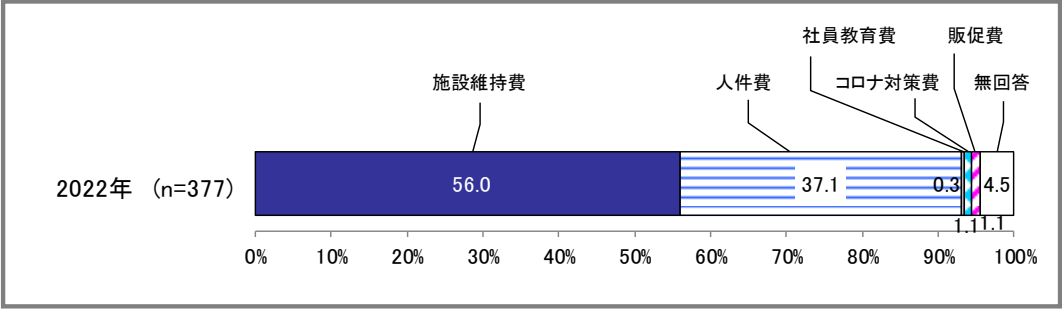
地域別にみると「増えた」の割合は、関西（26.8%）と関東（24.7%）が2割台で、他に比べて高い（図表 2-1-5）。

図表 2-1-5：事業所の利益の前年同期比の増減（n=377 事業所）

		n	増えた	減った	変わらない	無回答
全 体		377	19.9	51.7	27.3	1.1
事業所の テニス部門 形態	テニス単独の事業所	289	17.3	54.3	27.7	0.7
	スポーツクラブ等で種目にテニス含む	48	29.2	45.8	22.9	2.1
	その他	39	28.2	38.5	30.8	2.6
	その他	39	28.2	38.5	30.8	2.6
事業所の サービス内 容(組み合わ せ)	会員制のみ	23	4.3	52.2	39.1	4.3
	会員制及びスクール	44	6.8	52.3	40.9	-
	会員制及び面貸し	14	7.1	64.3	28.6	-
	会員制、スクール及び面貸し	102	19.6	52.9	25.5	2.0
	スクールのみ	39	33.3	51.3	15.4	-
	スクール及び面貸し	128	27.3	48.4	23.4	0.8
	面貸しのみ	26	3.8	57.7	38.5	-
	その他	1	100.0	-	-	-
	その他	1	100.0	-	-	-
コート形態別	屋内（インドア）のみ	103	28.2	53.4	17.5	1.0
	屋外（アウトドア）のみ	178	13.5	51.7	33.7	1.1
	両方（インドア&アウトドア）	95	23.2	50.5	25.3	1.1
地域別	北海道	15	13.3	66.7	20.0	-
	東北	9	11.1	66.7	22.2	-
	北信越	13	7.7	61.5	30.8	-
	関東	186	24.7	46.2	28.0	1.1
	東海	53	9.4	66.0	24.5	-
	関西	56	26.8	44.6	25.0	3.6
	中国	12	16.7	75.0	8.3	-
	四国	12	8.3	41.7	50.0	-
	九州	21	9.5	52.4	38.1	-
	九州	21	9.5	52.4	38.1	-

利益を一番圧迫している項目は、「施設維持費」が過半数（56.0％）を占め最も高く、次いで「人件費」（37.1％）があがった。「施設維持費」と「人件費」の二項目で全体の9割以上（93.1％）を占める（図表2-1-6）。

図表 2-1-6：事業所の利益を一番圧迫している項目（n=377 事業所）



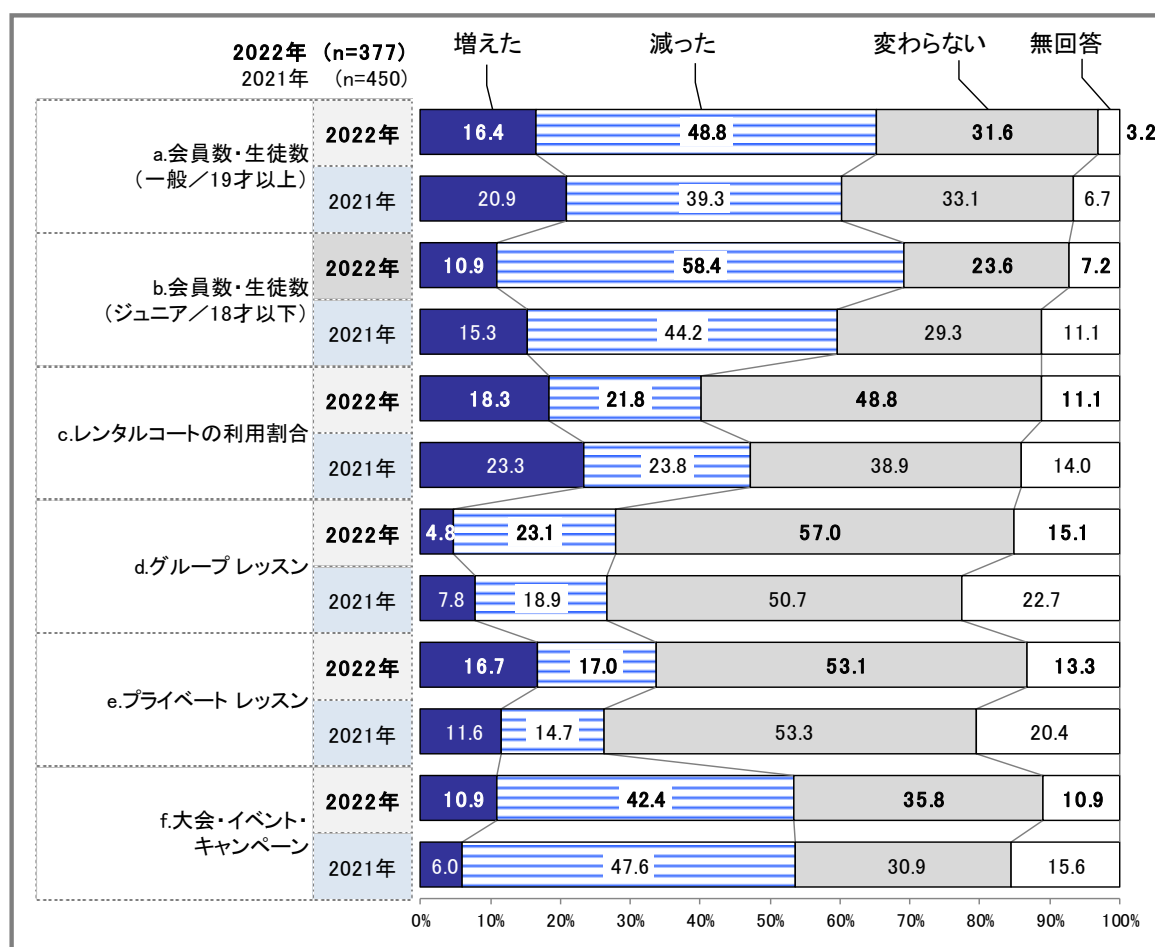
3 新型コロナウイルスと事業への影響と対策

新型コロナウイルス感染症拡大前と比べて、どのような変化があったかをたずねた。

『会員数・生徒数』（一般／19才以上 および ジュニア／18才以下）は前回と比べて「減った」の割合が10ポイント前後増えており、他の項目に比べて減少が目立っている。具体的には、「会員数・生徒数（一般／19才以上）」は、「増えた」が16.4%、「減った」が48.8%で、「減った」が「増えた」を32.4ポイント上回る。前回(2021年)と比較すると「減った」の割合が39.3%から48.8%へ9.5ポイント増加した。「会員数・生徒数（ジュニア／18才以下）」は、「増えた」が10.9%、「減った」が58.4%で、「減った」が「増えた」を47.5ポイント上回る。前回(2021年)と比較すると「減った」の割合が44.2%から58.4%へ14.2ポイント増加した。

前回(2021年)と比較して増えた項目は「プライベート レッスン」と「大会・イベント・キャンペーン」で、「プライベートレッスン」は「増えた」が11.6%から16.7%へ5.1ポイント増加し、「大会・イベント・キャンペーン」は「増えた」が6.0%から10.9%へ4.9ポイント増加した（図表3-1）。

図表 3-1：新型コロナウイルス感染症拡大による事業経営の変化 項目別（n=377 / 450 事業所）



図表 3-2：新型コロナウイルス感染症拡大による事業経営の変化 項目別（n=377 / 450 事業所）

〔事業所のテニス部門形態別〕

【2022年】

(%)

	n	増えた	減った	変わらない	無回答
a.会員数・生徒数（一般／19才以上）〔全体〕	377	16.4	48.8	31.6	3.2
テニス単独の事業所	289	15.2	50.5	31.5	2.8
スポーツクラブ等で種目にテニス含む	48	20.8	54.2	22.9	2.1
その他	39	20.5	30.8	41.0	7.7
b.会員数・生徒数（ジュニア／18才以下）〔全体〕	377	10.9	58.4	23.6	7.2
テニス単独の事業所	289	10.4	58.8	23.2	7.6
スポーツクラブ等で種目にテニス含む	48	10.4	66.7	20.8	2.1
その他	39	15.4	43.6	30.8	10.3
c.レンタルコートの利用割合〔全体〕	377	18.3	21.8	48.8	11.1
テニス単独の事業所	289	18.7	24.6	44.6	12.1
スポーツクラブ等で種目にテニス含む	48	18.8	8.3	62.5	10.4
その他	39	15.4	17.9	61.5	5.1
d.グループレッスン〔全体〕	377	4.8	23.1	57.0	15.1
テニス単独の事業所	289	4.8	25.6	54.0	15.6
スポーツクラブ等で種目にテニス含む	48	2.1	18.8	70.8	8.3
その他	39	7.7	10.3	61.5	20.5
e.プライベート レッスン〔全体〕	377	16.7	17.0	53.1	13.3
テニス単独の事業所	289	18.0	17.3	50.5	14.2
スポーツクラブ等で種目にテニス含む	48	4.2	16.7	70.8	8.3
その他	39	23.1	15.4	48.7	12.8
f.大会・イベント・キャンペーン〔全体〕	377	10.9	42.4	35.8	10.9
テニス単独の事業所	289	11.1	40.8	35.3	12.8
スポーツクラブ等で種目にテニス含む	48	12.5	43.8	41.7	2.1
その他	39	7.7	53.8	30.8	7.7

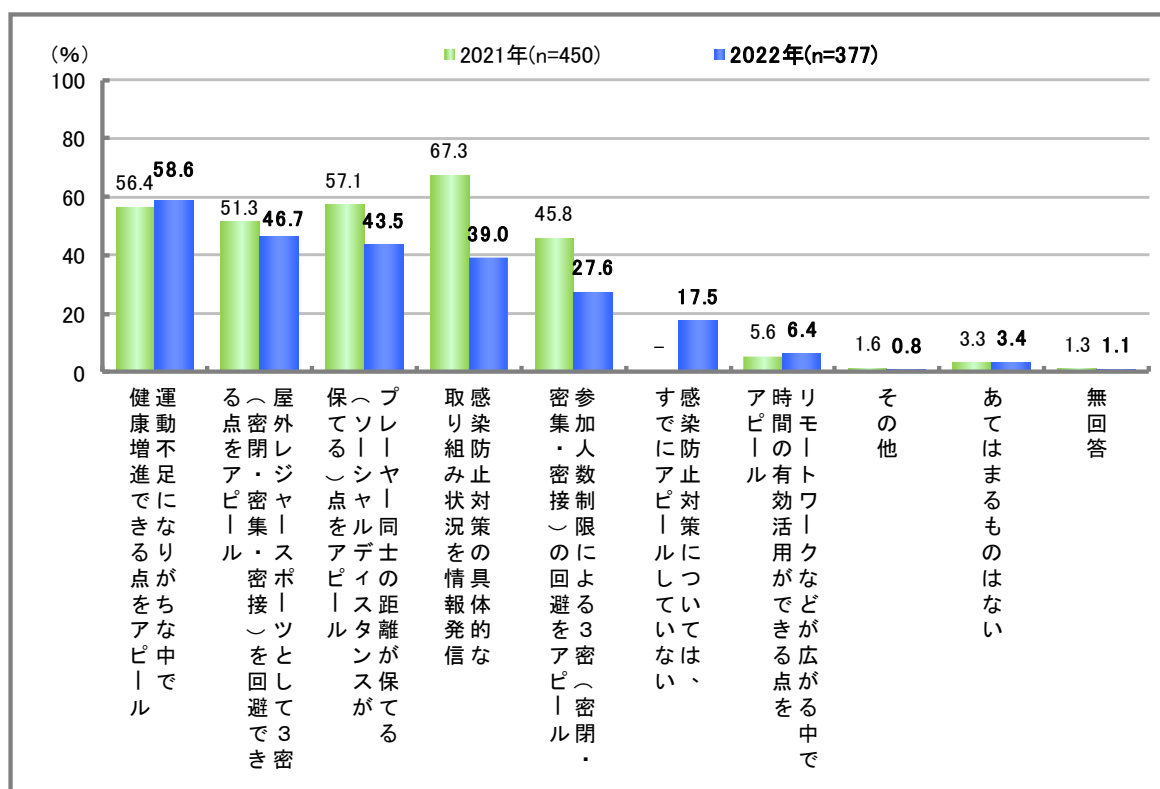
【2021年】

(%)

	n	増えた	減った	変わらない	無回答
a.会員数・生徒数（一般／19才以上）〔全体〕	450	20.9	39.3	33.1	6.7
テニス単独の事業所	342	20.8	39.5	35.1	4.7
スポーツクラブ等で種目にテニス含む	56	19.6	50.0	26.8	3.6
その他	48	25.0	29.2	29.2	16.7
b.会員数・生徒数（ジュニア／18才以下）〔全体〕	450	15.3	44.2	29.3	11.1
テニス単独の事業所	342	13.7	43.6	32.7	9.9
スポーツクラブ等で種目にテニス含む	56	23.2	55.4	16.1	5.4
その他	48	18.8	39.6	22.9	18.8
c.レンタルコートの利用割合〔全体〕	450	23.3	23.8	38.9	14.0
テニス単独の事業所	342	21.9	24.0	38.9	15.2
スポーツクラブ等で種目にテニス含む	56	30.4	19.6	41.1	8.9
その他	48	27.1	27.1	39.6	6.3
d.グループレッスン〔全体〕	450	7.8	18.9	50.7	22.7
テニス単独の事業所	342	7.3	19.6	50.9	22.2
スポーツクラブ等で種目にテニス含む	56	7.1	21.4	57.1	14.3
その他	48	12.5	12.5	45.8	29.2
e.プライベート レッスン〔全体〕	450	11.6	14.7	53.3	20.4
テニス単独の事業所	342	11.7	15.2	53.2	19.9
スポーツクラブ等で種目にテニス含む	56	10.7	12.5	60.7	16.1
その他	48	12.5	14.6	50.0	22.9
f.大会・イベント・キャンペーン〔全体〕	450	6.0	47.6	30.9	15.6
テニス単独の事業所	342	6.7	46.8	30.7	15.8
スポーツクラブ等で種目にテニス含む	56	1.8	58.9	30.4	8.9
その他	48	6.3	43.8	35.4	14.6

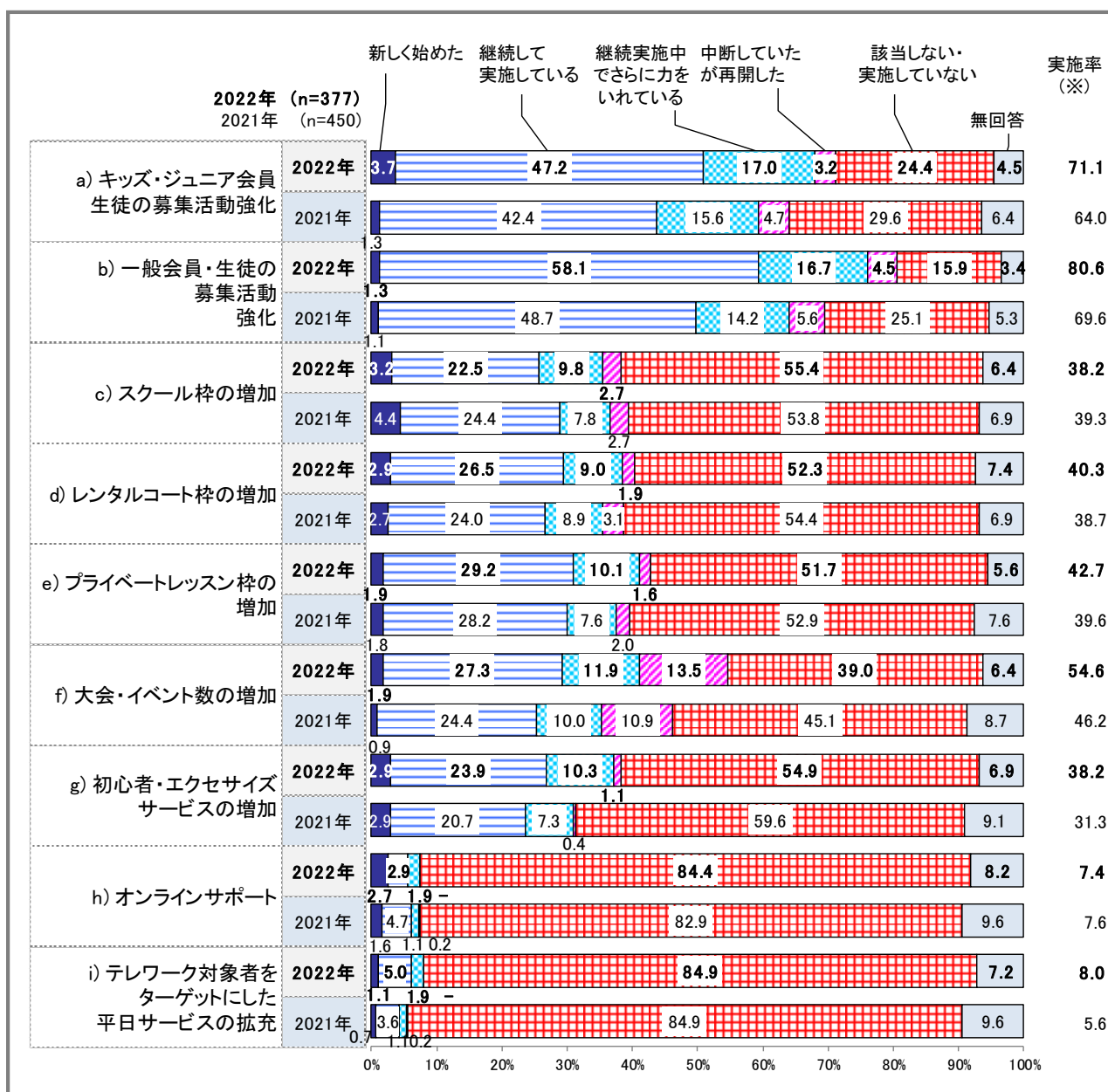
「withコロナ」の状況下でテニス事業を継続していく上でアピールしたことをたずねた。「運動不足になりがちなかで健康増進できる点をアピール」(58.6%)が5割を超え最も多く、次いで「屋外レジャースポーツとして3密(密閉・密集・密接)を回避できる点をアピール」(46.7%)、「プレーヤー同士の距離が保てる(ソーシャルディスタンスが保てる)点をアピール」(43.5%)が4割台であがった。前回(2021年)は67.3%で1位にあがった「感染防止対策の具体的な取り組み状況を情報発信」は39.0%で4位であった。また、2割弱(17.5%)は「感染防止対策については、すでにアピールしていない」と回答した(図表3-3)。

図表 3-3：テニス事業継続のためにアピールしている点 (n=377 / 450 事業所)



「with コロナ」の状況が3年目を迎えた2022年の新型コロナウイルス感染症拡大後の試みをたずねた。実施率（全体から「該当しない・実施していない」と「無回答」を除いた数値）をみると、9項目中7項目で前回（2021年）より実施率が増えた。特に増えたのが「一般会員・生徒の募集活動強化」が80.7%（前回69.6%）、「キッズ・ジュニア会員生徒の募集活動強化」が71.1%（前回64.0%）、「大会・イベント数の増加」が54.6%（前回46.2%）、「初心者・エクセサイズサービスの増加」が38.2%（前回31.3%）などの項目で、それぞれ実施率が6～11ポイント増加した（図表3-4）。

図表 3-4：新型コロナウイルス感染症拡大後の事業経営の変化 項目別（n=377 / 450 事業所）



※実施率：全体から「該当しない・実施していない」と「無回答」を除いた数値

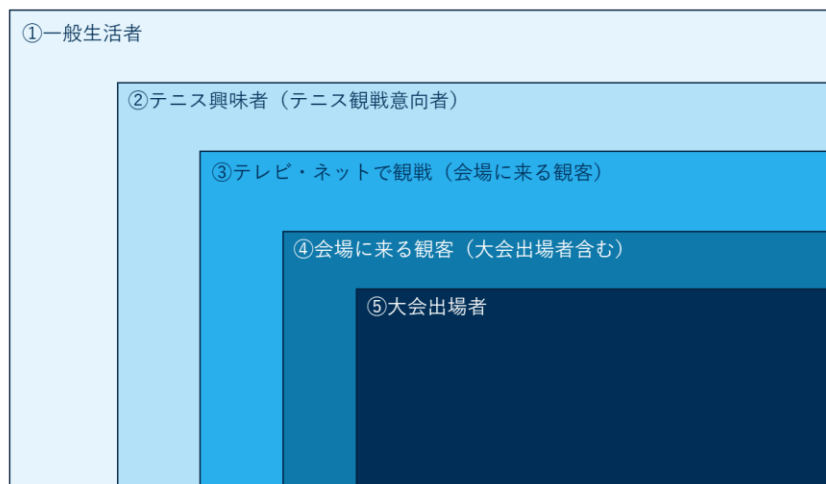
3. テニス観戦・競技者実態把握調査（一般層調査）報告書

残念ながら一部の大会を除いては、テニス大会の観戦者が減少傾向にある昨今、テニスに関する層を大きく5つに分けて、その中でも取りわけ「会場に来るポテンシャルのある人」を深掘して調査を行った。（協力：株式会社クロスマーケティング）

構造整理

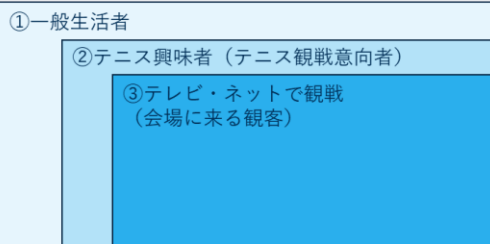
以下の図は、一般生活者から大会出場者までの構造を⑤階層に分けて、テニスに関わる人々を表しております。

一般生活者は②～⑤の出現率等を把握するための母数とするために設けており、それぞれの階層によって、調査手法や聴取項目を変えることで各層の仮説や課題を検証します。



Copyright © 2018 Cross Marketing Inc. All Rights Reserved.

構造整理



A: テニス観戦・競技者実態把握調査

- ➡
- ①一般生活者の「テニスへの関心レベル」を理解し、
 - ②テニス興味者（テニス観戦意向者）や
 - ③テレビ・ネットで観戦層に移行するための要素を明らかにする。

④会場に来る観客
（大会出場者含む）

B: テニス大会来場者調査

- ➡
- ・大会に来場して観戦するメリットを明らかにする。
 - ・大会観戦者の協賛企業への認知度やイメージを理解し、スポンサーが協賛する価値を明らかにする。

⑤大会出場者

C: テニス大会出場者調査

- ➡
- ・大会に対する満足/不満を明らかにする。
 - ・大会観戦者の協賛企業への認知度やイメージを理解し、スポンサーが協賛する価値を明らかにする。

Copyright © 2018 Cross Marketing Inc. All Rights Reserved.

2

調査目的
調査課題

		アンケート名	調査課題
A	①一般生活者	「テニス観戦・ 競技者実態把握調査」	・一般生活者を母数とし、②～⑤の出現率を把握 ・一般生活者層からテニス好き層になるための きっかけを明らかにする
	②テニス興味者 (テニス観戦意向者)		・テニス人口はどのくらいなのかを把握 ・テレビ・ネットで観戦層になるためのきっかけを 明らかにする
	③テレビ・ネットで観戦 (会場に来る観客を含む)		・来場者層になるためのきっかけを明らかにする
B	④会場に来る観客 (大会出場者を含む)	「テニス大会来場者調査」	・来場して観戦するメリットを明らかにする ・来場頻度を高めるためのきっかけを明らかにする ・協賛企業に対する認知度やイメージを明らかにし、 スポンサー側が、大会に協賛する価値を見出す
C	⑤大会出場者	「テニス大会出場者調査」	・大会に対する満足/不満点を明らかにする ・協賛企業に対する認知度やイメージを明らかにし、 スポンサー側が、大会に協賛する価値を見出す

Copyright © 2018 Cross Marketing Inc. All Rights Reserved.

3

調査目的
調査課題

調査目的

- 一般生活者の「テニスへの関心レベル」を理解し、②テニス興味者（テニス観戦意向者）/③テレビ・ネット/④会場で観戦層に移行するための要素を明らかにする

調査課題

- 課題1：一般生活者を母数とし、②～⑤層の出現率を把握
一般生活者層からテニス好き層になるためのきっかけを明らかにする
- 課題2：テニス人口はどのくらいなのかを把握
テレビ・ネットで観戦層になるためのきっかけを明らかにする
- 課題3：会場来場観戦層になるためのきっかけを明らかにする
- 課題4：協賛企業に対する認知度やイメージを明らかにし、スポンサー側が、大会に協賛する価値を見出す

4

調査設計

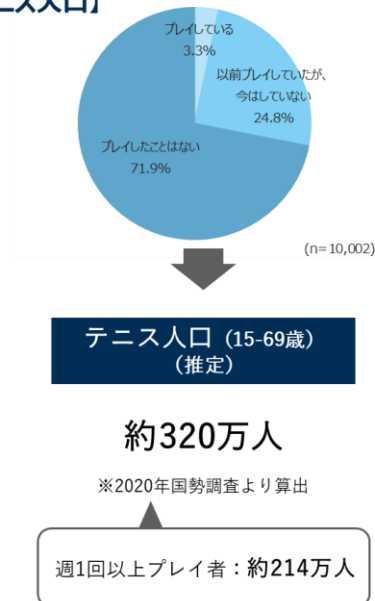
調査目的	一般生活者の「テニスへの関心レベル」を理解し、テニス好き/テレビ・ネット/会場で観戦層に移行するための要素を明らかにする				
調査エリア	全国47都道府県				
調査対象者	性別：男女 年齢：15-69歳				
サンプル数・割付	スクリーニング調査：10,002サンプル 本調査：1,000サンプル	本調査 割付	現在、 いずれかで 観戦 している人	現在、いずれ かで観戦して いる人（その うち、プレイ している人）	現在、観戦 していないがブ レイ している人
		サンプル数	648	173	56
調査期間	2022年12月2日（金）～2022年12月3日（土）				
調査手法	クロス・マーケティングモニターへのインターネット定量調査				
調査機関	株式会社クロス・マーケティング				



テニス人口構造把握

- 本調査結果より、**現在テニスをプレイしているのは3.3%**。2020年国勢調査より15-69歳の人口は約9,700万人であり、そこからテニス人口を算出すると、**約320万人**であった。**週1回以上プレイ者は約214万人**。
- 男性の方が女性よりも「プレイしている」人が多い。

【テニス人口】



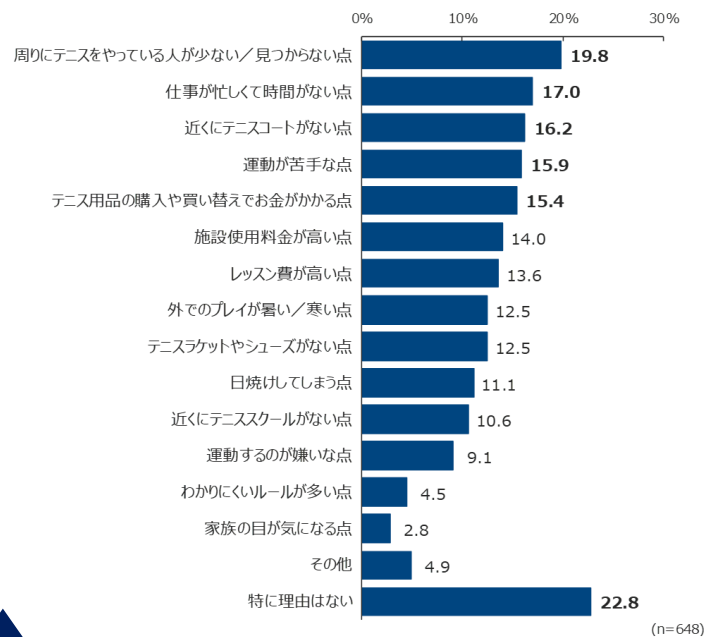
【性年代別】

	n=30以上で 全体+10pt以上 全体+5pt以上 全体-5pt以下 全体-10pt以下	プレイ経験あり計 (%)			プレイ経験あり計	残存率
		プレイしている	以前プレイしていたが、今はしていない	プレイしたことはない		
全 体	10,002	3.3	24.8	71.9	28.1	0.1
男性10代	288	3.1	22.2	74.7	25.3	0.1
男性20代	696	6.0	19.8	74.1	25.8	0.2
男性30代	840	4.8	17.3	78.0	22.1	0.2
男性40代	1,205	3.2	21.6	75.2	24.8	0.1
男性50代	1,087	3.5	32.0	64.5	35.5	0.1
男性60代	931	3.2	39.2	57.6	42.4	0.1
男性・計	5,047	3.9	26.2	69.9	30.1	0.1
女性10代	340	3.5	21.5	75.0	25.0	0.1
女性20代	725	2.5	15.2	82.3	17.7	0.1
女性30代	841	2.7	17.7	79.5	20.4	0.1
女性40代	1,105	2.8	20.3	76.9	23.1	0.1
女性50代	1,013	2.6	27.4	70.0	30.0	0.1
女性60代	931	2.9	35.0	62.1	37.9	0.1
女性・計	4,955	2.8	23.4	73.8	26.2	0.1

高齢層の方のプレイ率が高い傾向、逆に低年齢層のテニス経験の機会を増やす必要あり

観戦しているがプレイしない理由

- 観戦しているがプレイしない理由は、「周りにテニスをやっている人が少ない点」が19.8%で最も高い。次いで、「仕事が忙しくて時間がない点」（17.0%）、「近くにテニスコートがない点」（16.2%）の順に続く。

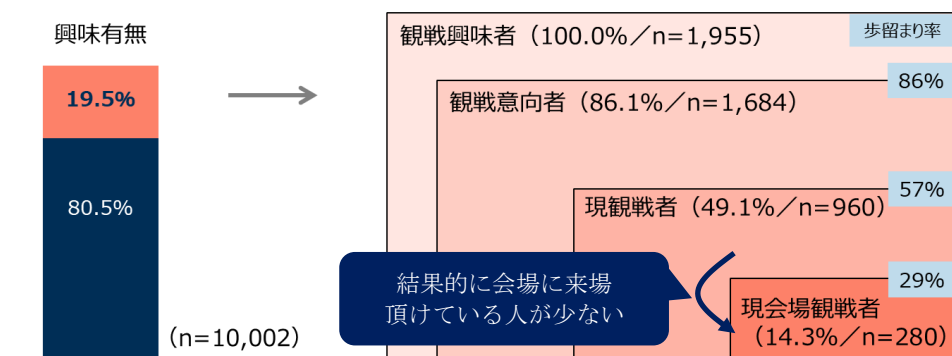


テニスができる環境（テニスコートやテニススクールなど）づくりが必要

8

【全体】テニス関与構造図

- 一般生活者のうち、観戦興味者は19.5%であった。現会場観戦者は観戦興味者を母数（100%）とした場合、14.3%。観戦意向者～現会場観戦者の歩留まり率が低く、観戦意向者実際に観戦してもらうための対策が必要である。
- テニス観戦興味者～現会場観戦者は、女性よりも男性の方が多く傾向がみられる。

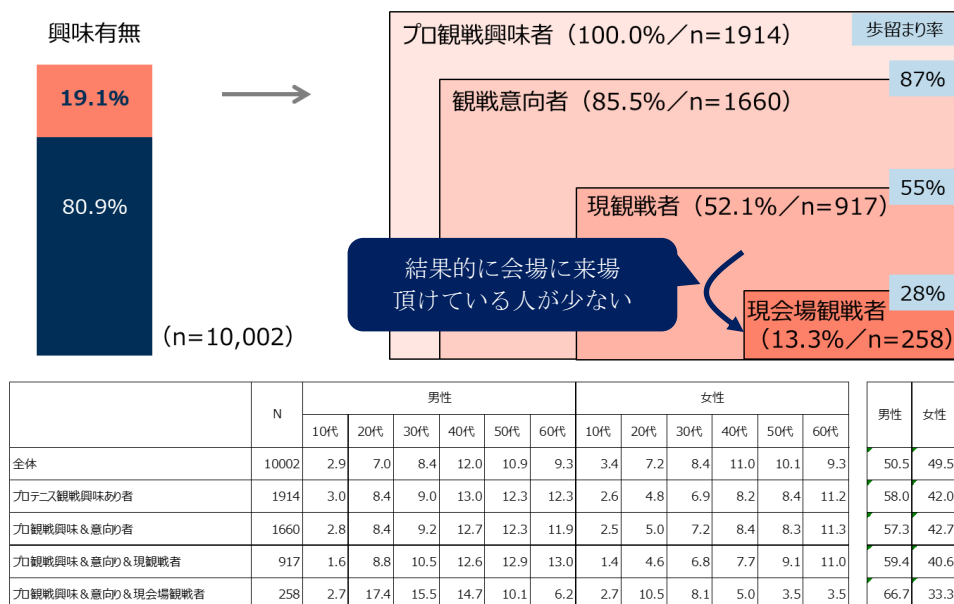


	N	男性						女性						男性計	女性計
		10代	20代	30代	40代	50代	60代	10代	20代	30代	40代	50代	60代		
全体	10,002	2.9	7.0	8.4	12.0	10.9	9.3	3.4	7.2	8.4	11.0	10.1	9.3	50.5	49.5
テニス観戦興味者	1,955	3.0	8.7	9.0	12.9	12.3	12.2	2.6	4.8	6.9	8.2	8.3	11.0	58.2	41.8
テニス観戦興味者&意向者	1,684	2.9	8.7	9.2	12.6	12.3	11.9	2.4	5.1	7.1	8.3	8.3	11.2	57.5	42.5
テニス観戦興味者&意向者&現観戦者	960	1.9	9.3	10.5	12.3	12.7	12.5	1.6	5.0	6.9	7.8	8.8	10.8	59.2	40.8
テニス観戦興味者&意向者&現会場観戦者	280	2.5	18.9	14.6	14.3	9.6	6.1	2.9	10.0	8.6	5.7	3.2	3.6	66.1	33.9

9

【プロ】テニス観戦構造図

- 一般生活者のうち、観戦興味者は19.1%であった。観戦興味者を母数（100%）とした場合、現会場観戦者は13.3%。観戦意向者～現会場観戦者に進むにつれて、歩留まり率が低くなる傾向がみられる。
- 観戦意向者から現観戦者への歩留まり率が低く、観戦意向者に実際に観戦してもらうための対策が必要である。



10

協会のメディア発信力が問われている

【プロ】ファネル別理由把握（配信でアーカイブの「プロ」の試合を観戦）

- 観戦しない理由は「どのチャンネルや配信で観れるか分からないから」「いつ大会が行われているのか分からないから」が上位に挙げられている。
- 観戦理由では「観ていて面白いから」が際立って高い。大会や放送（配信）の宣伝を観戦意向者に伝わる手段で宣伝し、実際にテニスを観てもらうことで面白さが伝わり、観戦者層が増えるのではないかと推測できる。

観戦しない理由 (n=614)			観戦理由 (n=204)		
1位	観る時間がないから	25.2%	1位	観ていて面白いから	37.3%
2位	どのチャンネルや配信で観れるか分からないから	18.7%	2位	好きな選手を応援するため	28.9%
2位	いつ大会が行われているのか分からないから	18.7%	3位	テニスをプレイしているから	20.1%
4位	試合時間と業務時間（仕事、家事など）が重なり観れないから	15.3%	4位	家族や友人、知人がテニスを観るのが好きだから	17.2%

すきま時間で試合が見られるニーズが高い

SC13_6 あなたは、テニスの試合を観戦する意向があるにも関わらず、観戦しない理由は何ですか。以下の項目について、それぞれ当てはまるものを全てお選びください。
 /配信でアーカイブの「プロ」の試合を観戦（MA）
 Q2_4 あなたが、テニスをテレビや配信で観戦されている理由や目的は何ですか。以下の選択肢の中からそれぞれ当てはまるものを全てお選びください。
 /配信でアーカイブの「プロ」の試合を観戦（MA）

11

試合を生で観戦頂くことでリピーター
になって頂ける可能性がある

【プロ】ファネル別理由把握（会場で「プロ」のライブの試合を観戦）

- 観戦しない理由として、「観る時間がないから」「試合時間と業務時間（仕事、家事など）が重なり観れないから」が上位に挙げられている。会場に実際に足を運ぶことのハードルの高さが窺える。
- 一方、観戦理由は「白熱した雰囲気を感じられるから」など、会場観戦特有のメリットが上位にあがった。

観戦しない理由 (n=1434)			観戦理由 (n=205)		
1位	観る時間がないから	26.8%	1位	テニスが好きだから	34.1%
2位	試合時間と業務時間（仕事、家事など）が重なり観れないから	23.6%	2位	白熱した雰囲気を体感できるから	30.7%
3位	いつ大会が行われているのか分からないから	22.0%	3位	好きな（応援している）選手がいるから	25.4%
4位	試合時間が長いから	12.6%	3位	会場の雰囲気が好きだから	25.4%

会場の雰囲気づくりが大事

SC13_1 あなたは、テニスの試合を観戦する意向があるにも関わらず、観戦しない理由は何ですか。以下の項目について、それぞれ当てはまるものを全てお選びください。
／会場で「プロ」の試合を観戦（MA）
Q5_1 あなたがテニスの試合を会場で観戦する理由や目的について、前問で文章でお答えいただきました。観戦する理由や目的として、以下の選択肢の中でそれぞれ当てはまるものを全てお選びください。／プロの試合（MA）

12

会場観戦理由（自由回答）

- 「臨場感・一体感」、「迫力」、「打球の速さ」など、テレビや配信では感じることができない内容が多く挙げられていた。これらの内容は、実際に会場で観戦しないとテレビや配信との違いがわからないことも多いため、試合の放送や大会の宣伝以外にも、動画配信サービスやSNSを利用して、このようなアピールに特化した宣伝を行うことも効果的ではないかと推測される。

テニスの試合を会場で観戦する理由や目的	
スポーツや音楽はライブが一番と昔から思っている。試合の臨場感、ライブならではの緊張感、まわりの雰囲気、すべてがいい	臨場感はその場に行かないと体験できないから。その瞬間はその場で味わいたいと思うから
テレビでみるよりも迫力があって面白いから	迫力があるから。一体感が生まれて応援することが楽しいから。
生で選手を拝みたいのと、選手の気迫と汗を間近で距離を感じたい	駆け引きがとても面白く素晴らしいプレイが観れるから
錦織圭の活躍	盛り上がるから
雰囲気や熱気を感じられる	打球の強さをみたい
プロの試合を会場で観ると迫力がテレビでは味わえないから	実際に目の前で見るのは感動する
白熱した試合を間近で見たいから	肌感で感じるができるから。
臨場感、音、選手の息づかいが生で聞けること。	熱くなれる

Q4_1 あなたが、テニスの試合を会場で観戦する理由や目的は何ですか。思い浮かぶことを自由にご記入ください。

13

会場で試合を観ること以外の楽しさや魅力

- 【自由回答】では、「大会の雰囲気や熱気」、「屋台（食事）」、「グッズやサインボール」など会場でしか体験・購入することができない内容が多く挙げられていた。会場ならではの特別感を提供できれば、新規来場者の増加や来場者の満足度の向上にもつながるのではないかと推測される。

【自由回答】

グッズを購入する	好きな選手に会える
サインボールがもらえること	同じく好きな人たちと一緒に応援できる
ファンとの交流	食事
大会の雰囲気、観客の熱気	出店や屋台があるから
会場でビールやおいしいものを食べながら 楽しく観られること	会場に来ている他のお客さんとの一体感が 味わえるところ

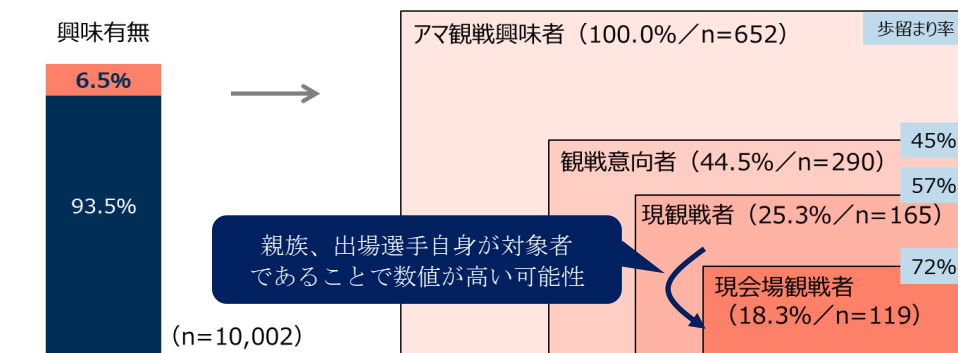
【複数回答】



会場でテニス以外の食事環境やイベント開催も来場きっかけの重要な要素でもある

【アマチュア】テニス観戦構造図

- 一般生活者のうち、観戦興味者は6.5%であった。観戦興味者を母数（100%）とした場合、現会場観戦者は18.3%でプロ観戦構造図と比較して5.0pt高い。
- 観戦意向者～現会場観戦者に進むにつれて歩留まり率が高く、プロテニス観戦構造図とは異なる傾向がみられる。



	N	男性						女性						男性	女性
		10代	20代	30代	40代	50代	60代	10代	20代	30代	40代	50代	60代		
全体	10002	2.9	7.0	8.4	12.0	10.9	9.3	3.4	7.2	8.4	11.0	10.1	9.3	50.5	49.5
アマチュアテニス観戦興味あり者	652	4.9	14.0	12.0	13.3	9.4	8.3	3.7	7.1	8.3	8.1	5.4	5.7	61.8	38.2
アマ観戦興味&意向あり者	290	3.8	15.2	15.2	15.2	8.3	7.6	3.1	7.2	9.0	5.5	5.5	4.5	65.2	34.8
アマ観戦興味&意向あり&現観戦者	165	3.0	15.8	17.6	15.2	7.9	5.5	4.2	10.3	7.9	6.7	2.4	3.6	64.8	35.2
アマ観戦興味&意向あり&現会場観戦者	119	3.4	19.3	15.1	13.4	6.7	5.0	4.2	10.9	9.2	7.6	1.7	3.4	63.0	37.0

【アマチュア】ファネル別理由把握（配信でアーカイブの「アマチュア」の試合を観戦）

- 観戦・興味がない理由や観戦しない理由として、「いつ大会が行われているのか分からないから」、「どのチャンネルや配信で観れるのか分からないから」が上位であった。観戦していない層に大会のPRが行き届いていないことが窺える。
- 一方、観戦理由は「好きな選手を応援するため」、「家族や友人、知人がテニスを観るのが好きだから」、「観ていて面白いから」が最も高い。

観戦しない理由 (n=358)			観戦理由 (n=132)		
1位	観る時間がないから	23.2%	1位	好きな選手を応援するため	21.2%
2位	いつ大会が行われているのか分からないから	19.0%	1位	家族や友人、知人がテニスを観るのが好きだから	21.2%
3位	試合時間と業務時間（仕事、家事など）が重なり観れないから	15.1%	1位	観ていて面白いから	21.2%
4位	どのチャンネルや配信で観れるのか分からないから	13.4%	4位	テニスをプレイしているから	17.4%
			4位	家族や友人、知人がテニスをやっているから	17.4%

協会のメディア発信力が問われている

SC13_7 あなたは、テニスの試合を観戦する意向があるにも関わらず、観戦しない理由は何ですか。以下の項目について、それぞれ当てはまるものを全てお選びください。
 ／配信でアーカイブの「アマチュア」の試合を観戦（MA）
 Q2_5 あなたが、テニスをテレビや配信で観戦されている理由や目的は何ですか。以下の選択肢の中からそれぞれ当てはまるものを全てお選びください。
 ／配信でアーカイブの「アマチュア」の試合を観戦（MA）

16

【アマチュア】ファネル別理由把握（会場で「アマチュア」のライブの試合を観戦）

- 観戦興味がない理由や観戦しない理由として、「試合を観ることに興味がないから」、「面白くないから」、「観る時間がないから」などの項目が上位であり、「テニスを観ること自体の楽しさやメリットが伝わっていないことが窺える。」
- 一方、観戦する理由は「会場の雰囲気が好きだから」、「白熱した雰囲気を体感できるから」といった会場でしか味わうことができない項目が上位であった。

観戦しない理由 (n=491)			観戦理由 (n=115)		
1位	観る時間がないから	26.1%	1位	テニスが喜欢だから	25.2%
2位	いつ大会が行われているのか分からないから	22.0%	2位	会場の雰囲気が好きだから	24.3%
3位	試合時間と業務時間（仕事、家事など）が重なり観れないから	20.2%	3位	テニスをプレイしているから	22.6%
			3位	白熱した雰囲気を体感できるから	22.6%

SC13_2 あなたは、テニスの試合を観戦する意向があるにも関わらず、観戦しない理由は何ですか。以下の項目について、それぞれ当てはまるものを全てお選びください。
 ／会場「アマチュア」の試合を観戦（MA）
 Q5_2 あなたがテニスの試合を会場で観戦する理由や目的について、前問で文章でお答えいただきました。観戦する理由や目的として、以下の選択肢の中でそれぞれ当てはまるものを全てお選びください。／アマチュアの試合（MA）

17

4. テニス界における選手・公認審判員・公認指導者数

これまでマクロの視点が多かったテニス人口（登録者数など）について、より現状を把握できるように、今年度より、数年における推移やグラフでの表記を心掛けました。ジュニアについては各競技団体のご協力のもと、中学、高校、大学については、部員数などミクロの視点でのデータを表記するようにしました。

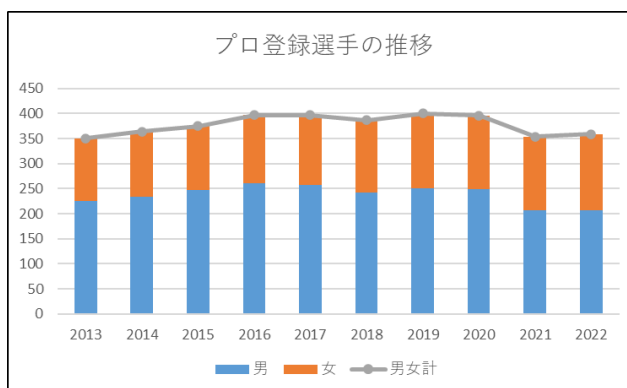
4-1 登録選手

4-1-1 プロ登録選手

「プロ登録選手」は過去 10 年の経過において、新型コロナウイルスの影響があったものの、**350 人から 400 人で推移**している。

	男子		女子		合計	
		前年比		前年比		前年比
地域合計	206	▲2	153	4	359	2
北海道	5	2	1	1	6	3
東北	1	▲1	0	0	1	▲1
北信越	2	▲1	3	0	5	▲1
関東	123	▲4	95	0	218	▲4
東海	19	▲1	14	3	33	2
関西	43	3	26	0	69	3
中国	3	0	4	1	7	1
四国	2	0	1	0	3	0
九州	7	0	7	▲1	14	▲1

注）合計には海外の男子1人、女子2人が含まれる

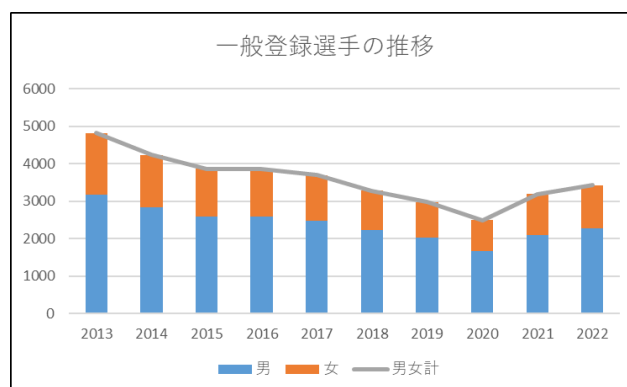


4-1-2 一般登録選手

「一般登録選手」は新型コロナウイルス発生時を底に盛り返してきているが、約 5,000 人いた 2013 年に比べ、現在、3,500 人とおよそ、**30%減少**している。

	男子		女子		合計	
		前年比		前年比		前年比
地域合計	2,287	172	1,138	49	3,425	221
北海道	51	8	12	0	63	8
東北	46	1	33	8	79	9
北信越	81	14	28	5	109	19
関東	1,262	70	663	11	1,925	81
東海	144	▲19	73	▲11	217	▲30
関西	370	30	178	9	548	39
中国	91	17	46	13	137	30
四国	38	9	12	1	50	10
九州	199	42	93	13	292	55

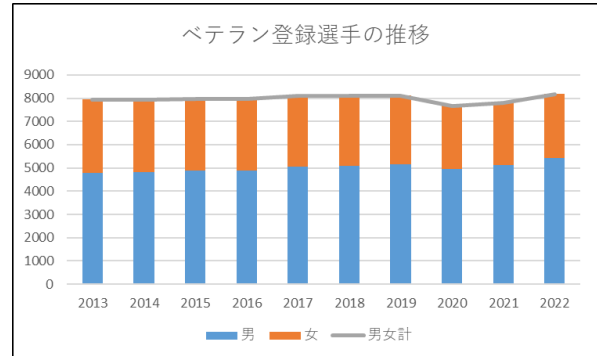
注）男子の合計には、海外の5人が含まれる



4-1-3 ベテラン登録選手

「ベテラン登録選手」は、新型コロナウイルスの影響を少し受けたものの、約 8,000 人で
堅調に推移している。

	男子		女子		合計	
		前年比		前年比		前年比
地域合計	5,428	295	2,752	77	8,180	372
北海道	140	3	115	6	255	9
東北	157	19	80	27	237	46
北信越	159	14	87	9	246	23
関東	2,905	179	1,489	50	4,394	229
東海	382	8	214	0	596	8
関西	992	59	422	▲7	1,414	52
中国	215	▲5	110	▲8	325	▲13
四国	105	2	46	▲13	151	▲11
九州	373	16	189	13	562	29

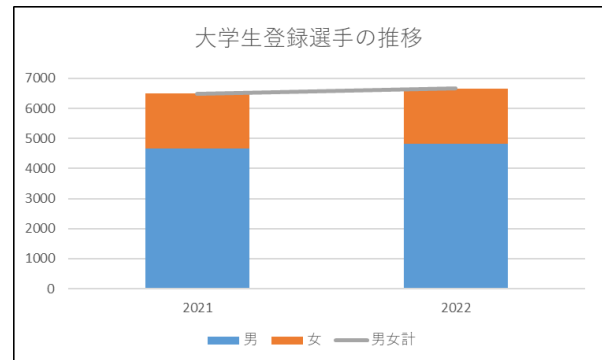


4-1-4 大学生登録選手（体育会のみ）

今回初めて掲載する「大学生登録選手」の登録者数。まだ 2021 年からのデータしかないため 2 年の推移の比較となります。新型コロナウイルスの厳しい中、微増となっている。

※大学同好会については、翌年度からの掲載を検討しております。（引用元：全日本学生テニス連盟）

	男子		女子		合計	
		前年比		前年比		前年比
地域合計	4,813	135	1,851	39	6,664	174
北海道	279	11	108	14	387	25
東北	251	▲21	57	▲10	308	▲31
北信越	1,583	6	690	25	2,273	31
関東	295	12	128	▲6	423	6
東海	581	▲13	214	▲10	795	▲23
関西	928	32	385	▲15	1,313	17
中国	436	43	124	5	560	48
四国						
九州	460	65	145	36	605	101

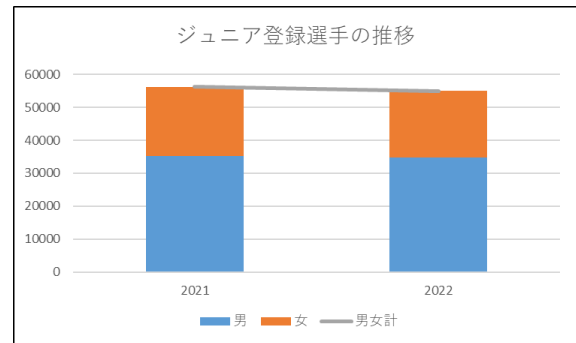


4-1-5 ジュニア登録選手

ジュニア選手の登録者数は、残念ながら全地域で減少傾向となっています。テニス人口拡大のためには、ジュニアにおける普及活動が必須となっています。特にテニス体験の機会を増やす活動と仕組みが必要な状況です。

※JPINのデータを元に表記しておりますが、関東のみ、関東テニス協会ジュニア委員会のご協力を得てデータを修正しております。

	男子		女子		合計	
		前年比		前年比		前年比
地域合計	34,759	▲5,184	20,256	▲1,691	55,015	▲6,875
北海道	1,692	▲25	1,209	32	2,901	7
東北	1,726	▲642	1,249	▲415	2,975	▲1,057
北信越	3,108	▲313	1,977	▲190	5,085	▲503
関東	7,826	▲542	3,673	▲117	11,499	▲659
東海	5,785	▲685	3,590	389	9,375	▲296
関西	8,180	▲1,282	4,638	▲540	12,818	▲1,822
中国	1,715	▲400	904	▲223	2,619	▲623
四国	1,849	▲348	1,303	▲149	3,152	▲497
九州	2,878	▲947	1,713	▲478	4,591	▲1,425

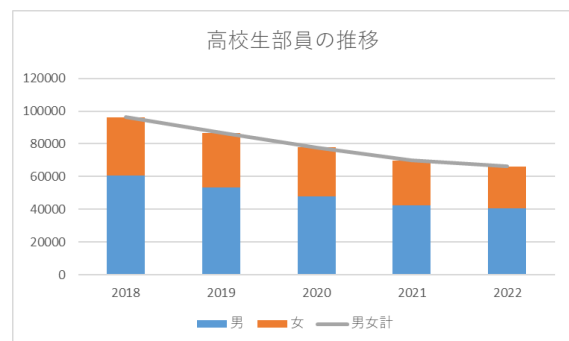


4-1-6 高校生登録選手

今回初めて掲載する高校生の登録選手。男女とも減少傾向が止まっていない状態です。学校の部活減少の影響もあり、4年前に比べ約10万人から約7万人（30%減）と落ち込んでいます。（引用元：全国高体連テニス専門部。登録が始まった5年前からのデータを表記しております）

■生徒数

	男子		女子		合計	
		前年比		前年比		前年比
地域合計	40,790	▲1,166	25,460	▲1,464	66,250	▲2,630
北海道	1,266	▲167	970	▲85	2,236	▲252
東北	1,655	▲163	1,121	▲41	2,776	▲204
北信越	2,344	▲212	1,451	▲214	3,795	▲426
関東	14,251	1,540	8,933	506	23,184	2,046
東海	7,052	▲143	4,265	▲48	11,317	▲191
関西	7,035	▲940	4,397	▲752	11,432	▲1,692
中国	2,175	▲162	1,299	▲171	3,474	▲333
四国	1,241	▲30	765	▲74	2,006	▲104
九州	3,771	▲889	2,259	▲585	6,030	▲1,474



■学校数

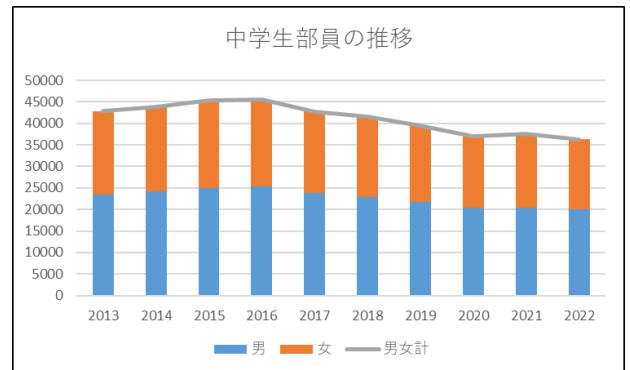
	男子		女子		合計	
		前年比		前年比		前年比
地域合計	2,521	▲112	2,305	▲115	2,817	▲227
北海道	110	▲8	99	▲6	130	▲14
東北	147	▲11	130	▲10	162	▲21
北信越	159	▲14	140	▲9	169	▲23
関東	877	▲1	832	▲9	997	▲10
東海	324	▲1	297	▲4	351	▲5
関西	386	▲19	351	▲22	432	▲41
中国	144	▲9	128	▲9	158	▲18
四国	97	▲4	87	▲3	108	▲7
九州	277	▲45	241	▲43	310	▲88

4-1-7 中学生登録選手

今回初めて掲載する中学生の登録選手。こちらも減少傾向ではありますが、ここ2年は下げどまり。政府が進める「部活動の地域移行」に動向については注視していく必要があると考えております。(引用元：全国中学校テニス連盟)

■生徒数

	男子		女子		合計	
		前年比		前年比		前年比
地域合計	19,961	▲471	16,273	▲897	36,234	▲1,368
北海道	77	▲31	83	▲30	160	▲61
東北	248	19	182	28	430	47
北信越	485	2	317	47	802	49
関東	9,769	▲10	8,629	▲76	18,398	▲86
東海	1,462	▲70	960	▲178	2,422	▲248
関西	4,035	▲89	3,135	▲78	7,170	▲167
中国	783	▲91	562	▲492	1,345	▲583
四国	466	▲51	394	174	860	123
九州	2,636	▲150	2,011	▲292	4,647	▲442



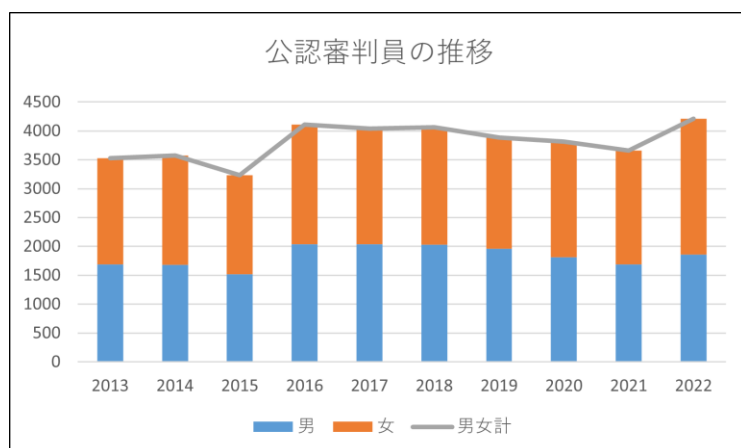
■学校数

	男子		女子		合計	
		前年比		前年比		前年比
地域合計	1,192	▲31	1,100	▲42	2,292	▲73
北海道	3	▲1	7	0	10	▲1
東北	25	9	22	5	47	14
北信越	30	▲4	26	▲20	56	▲24
関東	495	▲26	510	▲14	1,005	▲40
東海	57	▲4	51	▲2	108	▲6
関西	200	▲19	185	▲10	385	▲29
中国	85	11	70	4	155	15
四国	32	4	30	1	62	5
九州	265	▲1	199	▲6	464	▲7

4-2 公認審判員

公認審判員は全部門において増加の傾向。公認審判員の内、レフェリーは男子194人、女子268人で男女計462人。アンパイアは男子1,645人、女子2,030人で男女計3,675人。チーフアンパイアは男子21人、女子51人で男女計72人。

	レフェリー						アンパイア						チーフアンパイア					
	男子		女子		合計		男子		女子		合計		男子		女子		合計	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
地域合計	194	11	268	17	462	28	1,645	8	2,030	88	3,675	96	21	3	51	▲1	72	2
北海道	9	3	13	2	22	5	67	▲2	146	4	213	2	2	0	3	1	5	1
東北	14	0	2	0	16	0	114	▲14	154	7	268	▲7	1	0	0	0	1	0
北信越	15	0	14	1	29	1	156	15	146	14	302	29	1	0	3	0	4	0
関東	64	4	119	7	183	11	545	24	589	24	1,134	48	4	0	20	▲2	24	▲2
東海	18	0	33	1	51	1	148	▲12	207	0	355	▲12	5	2	8	0	13	2
関西	23	3	38	3	61	6	265	▲1	245	21	510	20	2	0	10	0	12	0
中国	24	0	16	1	40	1	101	1	151	18	252	19	4	1	4	0	8	1
四国	11	0	11	▲2	22	▲2	51	▲3	69	▲3	120	▲6	0	0	0	0	0	0
九州	16	1	22	4	38	5	198	0	323	3	521	3	2	0	3	0	5	0



4-3 公認指導員

公認指導員の資格は大きく分けて2つのカテゴリーがあり、公益財団法人日本スポーツ協会が認定する公認スポーツ指導者資格と、日本テニス協会が認定する資格とに分かれている。

4-3-1 コーチ1～コーチ4、テニス教師、テニス上級教師

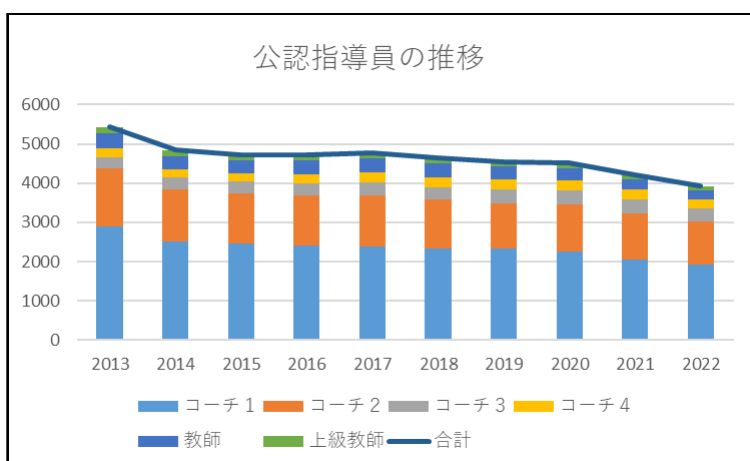
公益財団法人日本スポーツ協会が認定する公認スポーツ指導者資格の養成目的。

コーチ1	都道府県でテニスの普及発展を図るため、初心者、初級レベルの一般成人やジュニアを対象に基礎的実技指導にあたる指導者を養成する。
コーチ2	地域や都道府県で地域スポーツクラブ・学校運動部活動・テニス教室等において、年齢、競技レベルに応じたテニス指導にあたる中心的な役割を担うとともに、企画・立案・実行能力のある指導者を養成する。
コーチ3	競技者育成プログラムに基づき、都道府県、地域レベルでのテニス競技者の発掘・育成・強化にあたる高い指導力・高い実技能力を持った指導者を養成する。
コーチ4	トップアスリートの育成・強化にあたりとともに、都道府県・地域トレーニングセンターのリーダーとなる人物の育成にあたる指導者を養成する。
テニス教師	民間テニスクラブにおいて、初心者、初級、中級レベルの愛好家やジュニアを対象に、基本的実技指導にあたる指導者を養成する。またサービス業として顧客に対する応対ができ、社会的適応能力のある人材を育成する。
テニス上級教師	民間テニスクラブにおいて、あらゆる対象に対する指導にあたりとともに、スクールの運営・管理、カリキュラム編成、イベント企画に参画できる指導者を養成する。
S級エリートコーチ	S級エリートコーチ制度は、テニスのトレーニング、コーチング、マネジメントの各分野において最新の科学的理論と実践知識に基づき、世界基準の指導力を有する指導者を育成する。

2022年10月1日現在のS級エリートコーチを除く公認指導者は合計3,920人。軒並み、

減少傾向になっている。絶対数としては特に「コーチ1」「コーチ2」の落ち込みが激しい。割合としては、教師が16%、上級教師が14%といずれも高い減少率を示した。

	日本スポーツ協会資格													
	コーチ 1		コーチ 2		コーチ 3		コーチ 4		教師		上級教師		合計	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
地域合計	1,932	▲130	1,085	▲75	345	▲12	228	▲23	229	▲45	101	▲17	3,920	▲302
北海道	66	0	38	▲6	6	1	2	▲1	3	▲1	0	▲1	115	▲8
東北	170	▲11	74	▲4	22	▲4	13	0	7	0	10	0	296	▲19
北信越	205	▲35	83	▲51	23	▲7	18	▲15	20	▲24	9	▲13	358	▲145
関東	482	▲14	303	5	123	▲3	89	▲1	96	▲4	47	0	1,140	▲17
東海	221	▲5	70	▲9	37	2	20	0	15	▲5	9	▲2	372	▲19
関西	349	▲30	226	9	57	▲1	40	▲3	55	▲5	13	▲1	740	▲31
中国	201	▲29	141	▲12	29	▲1	24	▲1	12	▲1	3	▲2	410	▲46
四国	72	▲2	48	1	17	▲1	6	▲1	4	▲1	2	0	149	▲4
九州	166	▲4	102	▲8	31	2	16	▲1	17	▲4	8	2	340	▲13
国外	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

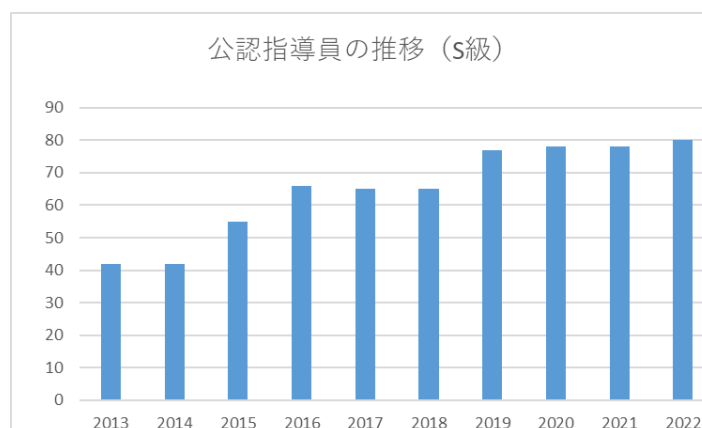


4-3-2 S級コーチ

S級エリートコーチは2021年4月1日現在で合計80人が認定されている。養成講習会が開催されていないため、前年に比べて変動はない。

注) S級エリートコーチの合計には、海外の1人が含まれる

	JTA S級エリート	
		前年比
地域合計	80	2
北海道	0	0
東北	1	0
北信越	2	0
関東	47	2
東海	4	0
関西	12	0
中国	5	0
四国	4	0
九州	4	0
国外	1	0



令和4年度 テニス環境等実態調査 報告書

令和5年（2023年）3月

発行者 公益財団法人日本テニス協会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-2 Japan Sport Olympic Square 7階

電話：03-6812-9271

E-mail：mail@jta-tennis.or.jp

URL：<http://www.jta-tennis.or.jp/>

編集 株式会社日本リサーチセンター



**JAPAN
TENNIS**
ASSOCIATION